

曲目の紹介

本日の第1曲目は、シューベルト作曲の交響曲第7番「未完成」ですが、私にとっては現役時代最後の定期演奏会で演奏した思い出深い曲の一つです。指揮は西高管弦楽団の産みの親であり永年にわたって育てていただいた恩師、加藤愼三先生（愛称「カトケン」）でした。入学式でピアノ伴奏ではないハレルヤコーラスを間近で聴いた時の感動は今でも忘れることのできないものであり、自分にとってのクラシック音楽の原体験であったように思います。早速中学からの友人であるT君と音楽室で入部手続きをしたときにお会いしたのが、加藤先生とのお付き合いの第1日目でした。私にとって高校時代最後の大曲が「未完成」であったと同時に、加藤先生にとっても23年間の札幌西高教員生活を締めくくる曲ともなりました。この曲を聴くたびに先生との3年間のさまざまな思い出が走馬灯のように蘇ってきます。

本日は指揮者の後ろ姿に、昨年亡くなられたカトケンの在りし日の姿を重ねあわせるのは、私一人だけでしょうか……

（個人的な感傷に浸ってばかりで何の曲目解説にもなっておらず、お詫びします。）

第2曲目は、ベルリオーズ作曲のハンガリー行進曲（ラコッティ行進曲）です。この曲は、ゲーテの原作をもとにして作曲された劇的物語「ファウストの劫罰」の第1幕で演奏されるものですが、この曲のオリジナルがラコッティ公のおかかえ音楽家の作曲とされるために「ラコッティ行進曲」とも呼ばれています。本日のプログラムもその名称を用いています。ちなみにベルリオーズは、後世に名を残す大作曲家としては珍しく、ピアノはおろか満足に演奏できる楽器がなかったと言われていますが、本日の第1ステージの指揮を努めます中島章能君は、OBオケの誇る名ヴァイオリニストの一人でもあります。

第3曲目が本日のメインプログラム、ブラームス作曲の交響曲第1番（通称「ブラ1」）であります。この曲は、第7回（平成3年）にも取り上げており、2度目の演奏となります。当団としては「新世界」「運命」「ドボ8」とともに今後も繰り返し演奏する可能性を秘めた曲であります（言い換えれば、OBオケにとって新曲をレパートリーに加えるには限界ありということか）

この曲は皆様もご承知のように、着想後21年の期間を経てブラームスが43歳のときに完成し、満を持して世に出された曲であり、まさに「大曲中の大曲」であります。（そのような曲をわずか2日間の練習で皆さんに披露してよいものかどうかはさておき）この曲は聴衆にとっても演奏者にとっても、終始多大なるエネルギーを要求される曲ではありますが、それだけに演奏を終えたあとには喩えようのない充実感が待っています。ベートーヴェンの「第9」に続く「第10交響曲」との表現もあるように、第4楽章の主題が特に有名であり、幸福感に満ち溢れたメロディが奏でられることと思いますが、曲全体にみなぎる緊張感が集約されている第1楽章序奏部にも、是非ご注目ください。

（西高26期 T.A.記）